社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第23号　2011（p.79）

【書　評】

田中　伸著『現代アメリカ社会科の展開と構造 －社会認識教育論から文化認識教育論へ－』

（風間書房，2011年）9,500円（本体のみ）

中　村　　哲
（兵庫教育大学）

本著は田中伸氏（大阪大谷大学）の学位論文（平成19年広島大学）を刊行したものである。氏の研究目的は，アメリカ社会科における文化学習の論理の分析と，社会科学の知の転換が社会科教育へ与えた影響の解明を通して，アメリカ社会科の論理構造の変化を明らかにすることである。
本書は，次の目次構成になっている。

序章　研究の目的と方法
第１部　アメリカ社会科の史的展開とその構造
　第１章　アメリカ社会科の史的展開
　第２章　アメリカ社会科の構造
第２部　文化学習の理論と類型化
　第３章　文化学習の展開と背景
　第４章　文化学習の類型
第３部　文化学習の展開と構造
　第５章　社会認識教育としての文化学習の内容編成原理
　第６章　文化認識教育としての文化学習の内容構成原理
　第７章　文化学習論からみたアメリカ社会科の構造変化とその論理
終章　総括と考察

本書の内容は，アメリカ社会科における文化学習を社会認識教育としての文化学習と文化認識教育としての文化学習に類型し，アメリカ社会科教書を事例にした各文化教育論の解明となっている。前者の文化学習としては，知識理解型文化学習「今日の世界（The World Today）の場合」，知識追求型文化学習「文化人類学（Cultural Anthropology）の場合」，知識批判型文化学習「人類学の探究（Inquiry Into Anthropology）の場合」の３類型に分け，内容構成と授業構成を解明し，各学習の特性と課題を指摘している。

後者の文化学習としては，意味理解型文化研究学習「比較文化（Comparing Cultures）の場合」，意味追究型文化研究学習「世界への窓（Windows to the World）の場合」，意味批判型文化研究学習「文化の構築（Create a Culture）の場合」の３類型に分け，内容構成と授業構成を解明し，各学習の特性と課題を指摘している。

このような各文化学習の考察に基づいてアメリカ社会科における文化学習は，前者の「文化を知識と捉える学習」から後者の「文化を意味枠組みとして捉える学習」へと転換している動向を指摘する。さらに，この文化学習の動向は，60年代の構造主義的アプローチを基盤とした社会科学教育としての社会認識教育から90年代以降の構築主義的アプローチを基盤とした市民性教育としての文化認識教育への転換が現代アメリカ社会科への論理構造の変化も示唆するものとして意義づけている。その意味では，アメリカ社会科における文化学習の考察からアメリカ社会科の新動向の構造変化を解明している力作である。

しかし，文化学習の類型を認識内容として知識と意味に区分し，前者を「構造主義的認識論」，後者を「構成主義的認識論」とする類型の認識論の妥当性に問題がある。また，認識方法を理解，追究，批判に区分する根拠が不明確である。さらに，文化学習の理論解明を通してアメリカ社会科の構造変化を指摘することは，実証性が乏しい仮説にしか過ぎない。今後，その仮説に基づいた歴史研究の推進が課題である。

これらの課題等が見られるが，これまでの日本の社会科教育においては政治・経済・地理・歴史の内容が主であったが，伝統と文化の取扱いが新社会科において重視されてきている。その意味では今後の社会科における文化の扱いを明確にする上で示唆を得る好著である。